

宇部・山陽小野田防災協会会長賞

「避難訓練の大切さ」

山陽小野田市立高千帆中学校 2年 新野 光

僕が1年生の3月11日、東日本大震災が起きた。その時、千葉県に住んでいた僕も震度5強の強い地震を経験した。ちょうど帰りの会の時間で、校舎が横に大きく揺れ始め、机の上の物が床に落ちたり、大きなテレビがグラグラ揺れて、落ちそうになる程だった。

僕たちは校内放送の指示に従って、座布団代わりにしている防災頭巾をかぶり、机の下に潜り込んだ。多分、ほんの数分の揺れだったはずだが、とても長い様に感じられた。

揺れが収まった後、上ばきのまま運動場へかけ足で出て素早く整列した。

迎えを待っている時も、地面がぐにゃぐにゃと柔らかい物の上にいる様に揺れたので、とても不安だった。

しばらくすると、迎えのお母さん達がたくさんやってきて、少し安心しましたが、訓練の時とは全く違い、緊張感が漂っていました。

家に帰ると、玄関の壁にひびが入っていたり、鏡が倒れて割れていました。ニュースを見ようとテレビをつけたのですが停電していたので、何が起きているのか全くわかりませんでした。

父は東京で働いているのですが、当日は帰宅しませんでした。この作文を書くにあたって、初めてその当時の心境を聞いてみました。

父は地震が起きてすぐに母の携帯に連絡したのですが、ずっとつながらず、家族や自宅の状況が全くわからず、とても心配したそうです。電車も止まって

いたので、歩いて帰宅しようかと思った頃、やっと電話がつながってホッとしたそうです。

避難訓練は毎月のようにやっていた。震災前は友達と話しながら少し遊び半分でしたが、震災後には全く気持ちが変わり、真剣に取り組むようになりました。

山陽小野田市に引っ越してきて2年余り経ちましたが、先月初めて避難訓練と引き渡し訓練を行いました。山口県は地震がとても少ない地域だと言われていますが、いつ災害が起きるか分からないと思います。

何も起こっていない時に行う訓練は、割と軽く考えがちだと思いますが、現実起こった時に慌てる事なく落ち着いて行動するためにも、真剣に取り組むべきだと強く思います。

また、震災時の家族の安否を確認出来る携帯用災害伝言板の活用や、防災グッズ、非常用持ち出し袋の準備などを災害が起きる前にやっている対策にもなると思いました。

